

1. 件名：高性能容器(HIC)の β 線放射線劣化に関する評価についての面談
2. 日時：令和3年4月15日(木) 13時00分～14時00分
3. 場所：原子力規制庁 6階会議室
4. 出席者
原子力規制庁
原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
竹内室長、岩永企画調査官、澁谷企画調査官、大辻室長補佐、知見主任安全審査官、市森係員
吉田技術参与、近藤技術参与、平山技術参与、鈴木技術参与、林技術参与、高木技術参与
(テレビ会議システムによる出席)
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー
プロジェクトマネジメント室 担当4名(テレビ会議システムによる出席)
福島第一原子力発電所 担当6名(テレビ会議システムによる出席)

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社(以下「東京電力」という。)から、3月22日の第89回特定原子力施設監視・評価検討会における原子力規制庁からの指摘を踏まえ、高性能容器(以下「HIC」という。)の β 線による放射線劣化に関する評価等について、資料に基づき以下の説明があった。
 - HICの β 線放射線劣化に関する評価の流れ
 - 炭酸塩スラリーを収容したHICの評価方法及び結果について
 - 経時変化への対応としてのHIC内スラリーの密度測定及び移替えの実施について
 - Sr吸着材を収容したHICの評価方法及び結果について
- 原子力規制庁は上記説明を受けた内容について、
 - HICに収納されているスラリーの沈降を考慮した濃縮割合の算出については、東京電力が解析に用いているデータやパラメータが適切でないため、現時点で東電自らが定めているHICの使用年限を超えている可能性もあるため、過小評価にならない様、評価手法の早急の見直しが必要と考えること
 - 次週から東京電力が行うとしているHIC内スラリーの密度測定については、現行のやり方では必要な情報が得られないと考えること等を伝えたところ、東京電力からはHIC内スラリーの密度測定は一旦中止とし、評価手法を再検討する旨回答があった。
- 原子力規制庁と東京電力は、HIC内のスラリーの沈降状況の把握や、HICの健全性を評価するにあたり適切なスラリー採取位置等について、今後議論を継続することとした。

6. その他

資料：

- 高性能容器(HIC)の β 線放射線劣化について
- β 線によるHICの放射線損傷を検討する上で重要なこと